

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日実施)	総合評価(3月21日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1)「自立と社会参加」に向けた教育課程を編成し授業改善に向けた取組をすすめます。</p> <p>(2)小・中学部、高等部を通した一貫性のある「キャリア教育」に向けた取組をすすめます。</p>	<p>(1)「自立と社会参加」に向けた教育課程編成、授業改善のための課題を整理します。</p> <p>(2)小・中・高の一貫したキャリア教育発達段階・内容表を見直します。</p>	<p>(1)各学部や教育課程チームで小中高のつながりがよりスムーズとなるよう教育課程、授業の課題を抽出し、改善に取り組む。</p> <p>(2)①キャリア教育をテーマに学部研究をすすめる。教育課程チームと研究チームで連携して課題を抽出し、見直しを行う。</p> <p>②校内研究において学部全体での検討や、小グループでの検討を通して、課題解決に取り組む。</p>	<p>(1)各学部や教育課程チームで小中高のつながりがよりスムーズとなるような教育課程、授業の課題を抽出し、改善に取り組むことができたか。</p> <p>(2)①キャリア教育をテーマに学部研究をすすめる。教育課程チームと研究チームで連携し課題を抽出し、見直しすることができたか。</p> <p>②各学部の課題解決に向けた、方策や考察を研究紀要にまとめられたか。</p>	<p>各学部の教育課程検討で挙げられている課題を把握し、小中高のつながりがよりスムーズになるよう、課題改善の検討を行う方向性の確認を行った。</p> <p>教育課程チームと連携し、「キャリア教育発達段階・内容表」の見直しに向けて、検討会を発足させ、改訂作業をすすめる中で、学部間の接続における課題抽出をしていく確認を行った。</p> <p>研究成果を共有し、課題について検討を行い、その成果や考察を研究紀要にまとめることができた。</p>	<p>改善へ向けての具体的な改善案を検討し、各学部の初任研や経験者研研究授業も活用しながら、通常の授業に反映されるように取り組む。</p> <p>国立特別支援教育総合研究所から出されている「知的障害のある児童生徒の『キャリア教育発達段階・内容表(試案)』」を参考に、各学部間のつながりが分かりやすい「キャリア教育発達段階・内容表」を作成する。</p> <p>各学部の研究成果を全校で共有し、次年度以降の日々の指導の改善に活かす。</p>	<p>○保護者の評価 ・自立と社会参加を目指した教育が行われているか：92% ●保護者の意見 ・個別の課題学習に取り組む時間の増加を。 ・下校時刻の見直しを。 ・体を動かす機会を増やして欲しい。 ・宿泊学習の内容について児童生徒の実態に応じた見直しを。 ◇学校評議員の意見 ・分教室のキャリア教育の更なる充実に期待している。 ・分教室の生徒の多くがいきいきと学習に参加している。今後も発達段階に応じた教育・キャリア支援をますます充実させてほしい。 ★学校に期待すること 教師の専門性、交流教育の充実</p>	<p>・小学部においては、キャリア教育の視点を指導略案に記入し、意識することができた。 ・中学部の作業学習においては、一人でできる作業、活動時間を増やす方向で授業改善を進めることができた。 ・「キャリア教育発達段階・内容表」における各学部の発達段階・指導のポイント・指導のねらいの確認と見直しに向けての課題抽出を行うことができた。次年度以降は、作業工程の進行管理が重要になる。 ・高等部においては、主権者教育について、各学年の教員が共通認識を持ち、学部全体で研究を進めることができ、成果を研究紀要にまとめることができた。 ・分教室においては各学年で選挙の仕組みや方法を知る授業を行い、2月に生徒会役員選挙を実施した。</p>	<p>・各学部ともに、キャリア教育の視点を持ち、授業改善に向けた見直し作業を進めていく。 ・小学部においては、授業実施グループで継続して十分な話し合いを持ち、達成感のある授業作りを目指す。 ・中学部においては、主体的な活動を通じて生活意欲や働く意欲を向上させる授業作りを行う。 ・高等部・分教室においては、今年度の取組を継続し、主権者教育や政治参加教育を実施し、生徒の主体性を引き出し実績を上げていく必要がある。 ・「キャリア教育発達段階・内容表」の見直しについては、今年度策定したロードマップに沿って工程管理をしながら行っていく必要がある。</p>
2 児童・生徒指導・支援	<p>(1)一人ひとりに応じた、きめ細かな児童生徒支援に向けた取組をすすめます。</p>	<p>(1)個に応じたきめ細かな教育指導をすすめるために、個別教育計画の作成方法等の改善策を検討・実施します。</p>	<p>(1)①個に応じた適切な個別教育計画の策定・実施のために、専門職との連携、アセスメント検査の活用をすすめる。</p> <p>②県教委の500冊リストを基に、本校の実態に合った選定リストを作成する。</p>	<p>(1)①専門職との連携、アセスメント検査の活用をすすめる。適切な個別教育計画を策定し実施できたか。</p> <p>②選定リストに基づいて、児童生徒一人ひとりの実態に応じた適切な教科用図書を選定できたか。</p>	<p>専門職が児童生徒の行動観察を行い、個別教育計画への参画をさらにすすめた。前年度の試みに加え、前期評価・後期目標についても、各学部の第1学年(小学部は4年も実施)に関わり、自立活動領域に関わる観点を目標・評価に反映させることができた。</p> <p>教科用図書選定委員会における参考リスト作成の意図と活用方法の周知徹底を図り、リストに沿った教科書選定ができた。</p>	<p>後期についても、目標設定時に関わった学年・クラスに専門職が参画できるよう専門職、学部長の連携を密にしていく。</p> <p>アセスメント検査の活用についても、各学部で、より適切な個別教育計画の作成・実施に活かせるようにしていく。</p> <p>各学部の書式や評価を統一する。選定した教科書が児童生徒の実態合っているかどうか確認できるよう選定委員会のあり方を再検討する。</p>	<p>○保護者の評価 ・個別教育計画に応じた指導と評価：95% ・アセスメントを踏まえた個別教育計画作成はされているか：92% ●保護者の意見 ・子どもの実態に応じて子どもの対応をしてきていて感謝している。 ◇学校評議員の意見 ・個別教育計画の作成・評価時に専門職の力を今まで以上に活用していくべき。 ・食育の取組がとて充実しているので継続を。 ・ICT機器を活用した授業の更なる充実を。</p>	<p>・小学部1・4年では、専門職(ST)と連携し、個別教育計画を作成することができた。 ・小中学部において、太田ステージの概要を知る研修会を持ち、共通理解を得ることができた。 ・ICT機器を活用した授業作りの研修会を行い、昨年度より、使用頻度が増加した。具体的な活用例の紹介はできたが、活用者は、特定の生徒、教員に偏っている。 ・食育についての研修会を実施することで教員の食育意識が向上した。 ・適切な教科用図書の選定を行うことができた。</p>	<p>・専門職の個別教育計画作成・評価への参画とアセスメント検査の活用については、継続して行っていく。 ・個別教育計画については、必要に応じて様式や記入要領の作成・見直し、記載内容、作成および評価のスケジュール等、検討をすすめる。 ・ICT機器については、より多くの児童生徒や教員が活用できるよう、引き続き効果的な研修を行っていく。 ・今後も保護者と連携しながら、食育の取組をすすめていく。 ・引き続き実態に合った教科書選定を行う。</p>

3	進路指導・支援	(1)将来の一人ひとりの生活の充実をめざし、発達段階に応じた進路指導・支援を行います。	(1)アセスメント等を通じて、一人ひとりの力や適性に応じた進路選択ができるようにし、担任・保護者・進路担当が複数回面談の機会を持ち、共通理解のもと進路指導できるよう努めます。	(1)本校独自のアセスメントや教育センターの学校アセスメントを行う。新たに小中学部保護者向けの進路学習会を学部と協力して計画するとともに、高等部でも、複数回、面談や見学会、保護者会等を通じて共通理解が持てるようにする。	(1)アセスメントを生かした指導、支援を行うことができたか。担任、保護者、進路担当が共通理解のもと進路指導ができたか。	高等部、分教室ともに生徒の実態に応じたアセスメントを実施し、グルーピングの参考やニーズの把握に活用することができた。小中学部で進路チーム、専門職と協力して、保護者進路学習会を実施し、進路に向けて共通理解を図ることができた。	アセスメントの結果を活かして、より適切な実習先等の検討をする。学習会の内容については保護者のニーズも反映させてさらに検討していく。 小学部・中学部ともに多数の参加者があり、次の学部への見通しを持たせることに成功したので、次年度はさらに参加者を増やすよう企画していく。	○保護者の評価 ・丁寧な進路指導や進路に関わる情報提供は行われているか：91% ●保護者の意見 ・今年度実施の進路学習会はS T、進路担当、学部長の話がとても良かった。 ◇学校評議員の意見 ・移行時の引継ぎが非常に重要。特に、医療面のアセスメントの更なる充実が必要である。	・高等部校内実習においては、新たな作業種を取り入れた。 ・現場実習では、生徒の障害特性を踏まえ、家庭と連携して実習先の選択・実施をすることができた。 ・分教室においては、夏季休業中に昨年度卒業生の進路先すべてを訪問し、情報交換を行い、必要に応じて指導を行った。卒業生の保護者を講師とする研修会を2月に実施した。	・保護者や関係機関からの情報収集や行動観察を含めたアセスメントをいっそう充実させ、生徒のより適切な実習先等の検討を行っていく。 ・小中学部の保護者進路学習会については、さらに参加者が増えるよう、ニーズの確認と内容・日程等の工夫をする。 ・高等部の校内実習の各学年のねらいについては、進路専任と再確認することが必要である。
4	地域等との協働	(1)地域のセンター的機能を高め、地域の学校や子どもたちを支援し、インクルーシブ教育推進に向けた取組をすすめます。 (2)地域と連携して防災の取組をすすめます。	(1)本校のセンター的機能の広報の機会を増やし、巡回相談、連絡会、研修会等を通じて、地域の子どもたちへの支援の向上をはかります。 (2)地域防災拠点との連携強化を進め、児童生徒、保護者、地域の方の防災意識を高めます。	(1)コーディネーター協議会等で、広報する機会を増やし、地域のニーズに応じた連絡会・研修会・巡回相談を行う。 (2)地域と連携した防災交流フェスタを実施し、機動的な防災体制を強化する。	(1)巡回相談や研修会の講師派遣など、具体的な支援に繋げることができたか。 (2)非常食の取り扱い方などの防災意識を高めることができたか。災害に備えた体制ができたか。	近隣の小中学校への巡回相談を積極的に行い、具体的な支援方法を提示することができた。研修会の講師派遣や公開研修会の開催を通じて、地域の子どもたちへの支援や障害理解につなげることができた。各学部における、非常食の喫食体験や、防災交流フェスタでの体験・展示を通して、児童生徒、教職員の防災意識を高めることができた。	巡回相談校に記入してもらう相談票の書式について、記入のしやすさ、個人情報の取り扱いの観点から、本校独自の相談票を作成した。次年度からはHPから書式をダウンロードできるようにし、相談しやすい環境を整えセンター的機能の充実を図る。地域との連携強化については、継続して取り組む。防災交流フェスタの参加者が、スクールバスを運行することで増えた。職員の勤務体制については、東本郷小地域防災拠点訓練と合せて検討が必要。	○保護者の評価 ・地域への支援や余暇情報の提供は行われていますか：84% ●保護者の意見 ・放課後等デイサービスにおける夏季休業中の教員の関わりについて整理し、周知して欲しい。 ◇学校評議員の意見 ・防災フェスタをはじめとする地域連携の取組は評価できる。 ・交通安全功労表彰も意義深い。 ・HP等で、センター的機能の実績をもっとアピールしてはどうか。	・巡回相談については、地域からの信頼を獲得できており、多くの派遣依頼がある。小中からの派遣依頼が多いが、今後は、幼稚園・保育園、さらには高等学校への支援を強化する必要がある。 ・出前授業を含めた研修会等への講師派遣についても、実績を伸ばしている。 ・公開研修会には外部から50名弱の参加が得られた。10月に本校保護者対象に、DVD上映という形で同じ内容の研修会を行い、25名の参加を得た。 ・高島屋ふれあい作品展の来場者は15,000人で規模拡大への対応が必要。	・地域の学校、教員、保護等に対する支援実績は伸びており、地域での存在感は増している。今後も継続してセンター的機能の役割を果たしていく中で、インクルーシブ教育の推進者としての意識をより持って、高等学校も含めた支援を実施していく必要がある。 ・今後も地域と連携した防災体制を強化していく。防災フェスタについては、今年度までの取組内容や実施規模、日程等を再評価し、防災/交流/フェスタそれぞれの目標達成に向けて取り組む必要がある。
5	学校管理 学校運営	(1)より安全・安心な学校体制の確立へ向けて、学校の危機管理体制を強化するとともに、不祥事防止へ向けての取組をすすめます。 (2)ミドルリーダーを中心とした学校経営をすすめます。	(1)①不祥事ゼロを目指した取組をすすめます。 ②児童生徒が安心して学び、楽しく過ごせるよう教育環境を整えます。 ③教職員、児童生徒の防災に対する判断力を高めます。 (2)ミドルリーダーが中心となって課題改善を行っています。	(1)①日々の振り返りを徹底して行い、不祥事をなくすことに努める。 ②安全点検を徹底して行い、故障等があったときは関係部署と連携し迅速に対応する。 ③災害図上訓練(DIG)を通して、緊急時の対応や体制の整備をすすめる。 (2)企画会議等を通して、横断的な意見交換を行い、課題の整理と改善策を検討する。	(1)①日々の連絡帳・荷物・下校方法の確認や学期末の「振り返りシート」での振り返りを徹底し、不祥事防止の取組をすすめることができたか。 ②物品の整理整頓をし、故障・紛失等に迅速に対応できたか。 ③実践的な避難訓練等が実施できたか。 (2)ミドルリーダーとしての意識を持ち、課題改善を行うことができたか。	各学部ともおおむね達成することができたが、下校方法の確認ミスや誤配付等が発生した。発生時には、迅速な事実確認、要因検証、対策立案を通じ、再発防止に努めた。視聴覚機器や職員書架の整理、備品点検を定期的に行い、故障・紛失に対応することができた。 東本郷小地域防災拠点訓練に参加し、地域とともに実践的な訓練を行うことができた。 各グループリーダーが横断的な立場で学校全体を見渡し、円滑な学校運営を行った。	引き続き年度当初に、登下校の確認方法、連絡帳などの個人情報の管理・配付方法を統一し、共通理解を図る。「振り返りシート」を有効活用し、不祥事ゼロを目指す。 今後も、視聴覚機器の故障の際には、事務室と連携し、相談しながら迅速に対応していく。 地域との連携を強化し、継続して取り組むとともに、発災時の情報伝達体制の整備をすすめる。 今後も各グループの課題を抽出し、企画会議の場で横断的な意見交換をすることで、学校経営に参画する。	○保護者の評価 ・緊急時の対応や防災対策は日頃から行われているか：97% ・個人情報は適正に保護されているか：99% ・会計報告は適正に行われているか：99% ●保護者の意見 ・教室内の安全について、意識をもう少し高く持って欲しい。災害時を想定し、棚の上に物を置かない、高い棚を固定する等をお願いしたい。 ・子どもが安心安全に過ごせるよう教育環境の整備をお願いしたい(トイレ、雨漏り、バリアフリー等)。 ◇学校評議員の意見 ・県の課題だと思えるが、適切な教育環境となるよう、早急な改善を。P T Aとの連携も必要である。	・不祥事ゼロを目指して、学校全体で目標及び行動計画を立てて取り組むことができた。 ・2学期に4回、学部学年等の単位で、討議の機会を設け、事例研究や未然防止、再発防止策についての検討を行った。 ・不祥事ゼロは達成できなかったが、各学部学年等の単位では「ほぼ達成できた」と評価をした。学校としては、80%達成と評価している。 ・校舎の老朽化に対応する大規模修繕が行われない現状で、学校として可能な取組は日常的に実施した(清掃強化日の設定やP T Aと連携した校舎内外清掃、故障箇所への迅速な修理修繕対応等)。 ・迅速な対応が求められるが、各グループリーダーが迅速、的確に対応し円滑な学校運営に寄与した。	・次年度は、文字通り不祥事ゼロを目指して取組をすすめる必要がある。 ・日常的な管理職からの注意喚起や啓発資料の有効活用、不祥事防止研修会の充実、当事者意識を強く持った学部学年等での議論等、まだまだ改善の余地はある。 ・今年度同様、不祥事に対するハードルを下げないという気持ちを、教職員一人ひとりが強く持って取り組んでいく。 ・安心安全な教育環境整備という点では、学校独自ではなかなか達成できなかった。引き続き、独自の取組、P T Aと連携した取組、県への働きかけを行っていく必要がある。 ・引き続き、グループリーダーを中心とした学校経営・学校運営をすすめていく。